

## 受賞スピーチ全文

村上春樹

このたびは「国際交流基金賞」受賞者に選んでいただき、感謝をしております。ただいま海外で生活をし、仕事しておりますために、この式に出席できない非礼をお詫びいたします。

僕は三十歳のときに作家としてデビューをし、今に至るまで様々な形式の小説を書き続けてきました。また僕の作品が外国語に翻訳され、海外で出版されるようになって四半世紀になります。外国に行くたびに、そこで僕の本の読者を発見し、驚くとともに、深い感謝の念に打たれます。僕自身が翻訳の仕事に熱意を持って続けてきたこともあり、それといわば交換のようなかたちで自分の作品が外国に受け入れられることは、僕にとって何より喜ばしいことであるからです。

翻訳作業のひとつの役目は、文化というものが特定の地域を越え、特定の時代を超えて力を発揮しうることを証明することにあります。たとえば僕は少年時代にカフカの『城』という小説を読んで、その世界にはまり込んでしまいました。そのとき、二十世紀初頭のチェコの名もない田舎町は、僕にとって何よりリアルなものとして感じられました。

物語の目的とは、今ここにある現実とは離れたところにある現実からものごとを運んできて、それによって、今ここにある現実をよりリアルに、より鮮やかに再現することにあります。その原理はどこでも、どの時代でも変わりません。だからこそ良き物語は翻訳可能であるし、翻訳されるだけの価値があるのです。僕はそう信じています。

現実の我々の世界には地理的な国境があります。残念ながら、というべきかどうかはわかりませんが、とにかくそれは存在します。そしてそれは時として摩擦を生み、政治問題を引き起こします。

文化の世界にももちろん国境はあります。でも地理上の国境とは違い、心を定めさえすれば、私たちにそれを易々とまたぎ超えることができます。言葉が違い生活様式が異なっても、物語という心のあり方を等価交換的に共有することができます。

そのような文化的越境が、地理上の国境を凌駕していけるかどうか、僕にはわかりません。それについてあまり楽観的にはなれない要因が多々あることも理解しています。しかし夢を見ることは、私たち一人ひとりに生来与えられた権利です。そして人々が良き夢を見ることを助けるのが、真に優れた物語の意味でもあります。僕は翻訳をし、翻訳されることを通して、その夢を見続けたいと考えています。

ありがとうございました。